



科学する心を大きく育む

世界では

近年、国際化が急速に進展し、国際社会の中で活躍できる人材の育成が急務となっています。中でも、中国やシンガポールなどをはじめとするアジア諸国では、外国語教育と合わせて理数教育に特に力を入れ、例えば STEM 教育や ICT 教育の充実に国家として取り組んでいます。

日本では

3.11 東北地方太平洋地震と津波は未曾有の被害を日本にもたらし、それに伴い発生した福島第一原子力発電所の事故による放射線災害は日本社会に大きな影を落としています。放射線による健康被害の不安や風評被害の解消、日本の復興という社会からの要請にこたえるために、学校における理科教育が担う役割は重要となっています。

科学に対する社会からの信頼を回復し、加えて、エネルギー問題や環境問題に関わる地球規模の課題などを解決し持続可能な社会を構築していくために、日本の科学教育をさらに充実させていかなければなりません。

理科教育関係者には

科学教育の中でも、学校という場において理科教育に携わる者は、学習指導要領に基づいて日々の理科教育を進める中で、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点から学習過程を改善し、未来を担う子どもたちに科学リテラシーを広く育むとともに、エネルギーや環境、科学技術の開発研究に関わる人材育成を全国的な規模で継続して進めていくことが求められています。

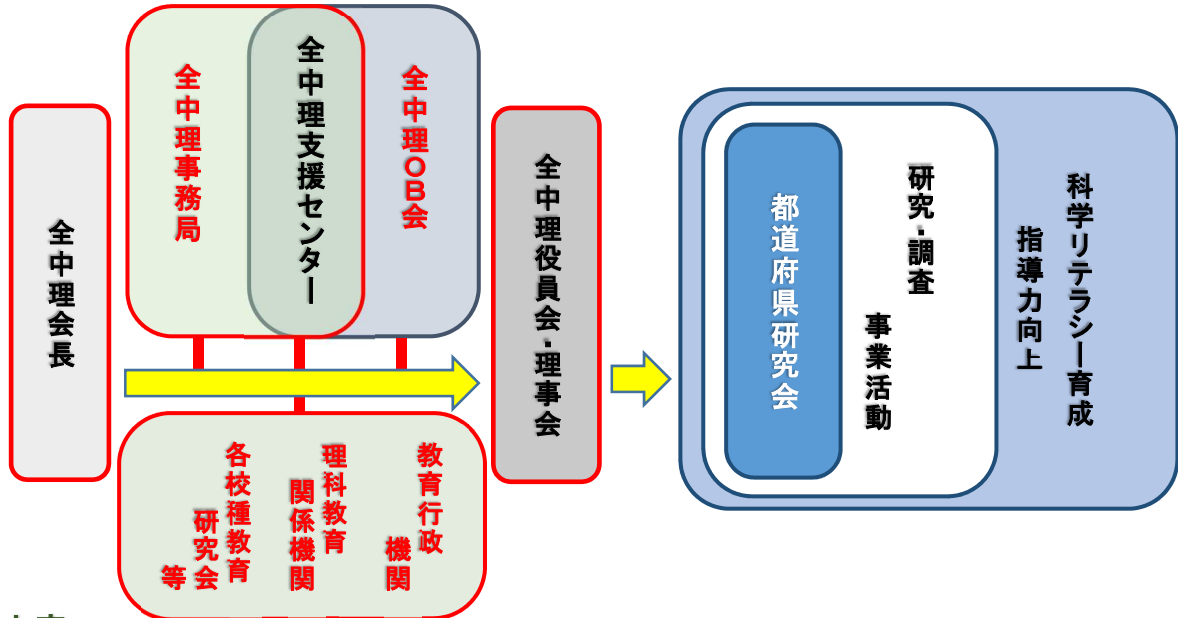
そのためには、全国で理科教育の充実発展のために活動している全国中学校理科教育研究会(以下 全中理)や全中理 OB 組織が校種を超えた研究会と連携し、関係する行政機関や研究会、企業などと一体となってその活動を更に活性化していかなければなりません。

全国中学校理科教育研究会では

昭和 28 年設立以来 60 年の歴史を有する全中理は、現在約 4 万人の中学校理科教師を会員とした全国組織であり、校種を超えて小学校や高等学校の理科研究会と連携・協力して理科教育の充実に向けた情報共有と実践研究を行ってきました。

全中理支援センター

全中理として、数年前より活動の更なる充実を目指して法人化を検討してきました。国及び関係機関、全国の各校種理科教育研究会との連携を図り、理科教育やその研究活動などを更に充実・発展させることを目的として、ここに、現役中学校理科教員と全中理及び全中理 OB、関係諸機関が一体となって活動するために「一般社団法人 全国中学校理科教育研究会支援センター」（略称：「全中理支援センター」）を設立いたしました。



事業内容

この全中理支援センターでは、例えば次のような事業を展開したいと考えています。また、この事業展開を通して、校種の枠を超えた全国の理科教育研究組織の活性化と理科教員の資質向上に資する活動を行いたいと考えています。

情報交換事業	各地で行われている優れた教育実践を全国に紹介する活動を行う 新しい教育情報などを全国に伝える活動を行う
表彰事業	優れた教育実践に対し賞状などを授与する活動を行う
調査事業	組織を通して全国的な調査活動を行う
研修事業	教員の研修会や生徒の学習会などの企画・運営を行う

このような活動を全国で展開していくためには、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校全校種の理科教育をはじめとする各校種の各種教育研究会との連携・協力が不可欠です。そのために、文部科学省及び各都道府県、市区町村教育委員会の教育行政機関、日本理科教育振興協会や教科書出版企業等の理科教育関係機関、各校種校長会、各校種理科教育研究会等の各校種教育研究会など、理科教育に関わる幅広い機関の方々にご理解とご協力をお願いいたします。

連絡先 全中理支援センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-8 ランディック第2虎ノ門ビル2階

Tel/Fax 03(6809)2155

HomePageURL: zcrsc.net e-mail: info@zcrsc.net

理事：高島勇二、山口晃弘、龍崎邦雄、大橋信介

